

「入日本化」で国技後世に

大相撲

日本相撲協会の第三者会議「大相撲の継承発展を考える有識者会議」が、提言書をまとめた。2019年から議論を続けてきた「国技」の将来像について、「神事に由来する伝統・精神・技法を守る」という方向性を示した。

提言書では、外国出身力士が活躍する現状を「多国籍化」、大相撲の文化と慣習に外国出身力士がなじんで受け入れることを「入日本化」と表現。同じく日本固有の武道である柔道と剣道を比較して検討した結果、五輪競技として国際化へ進んだ柔道ではなく、日本の伝統文化として海外への普及を図った剣道と同じ

方向性を目指すべきだとした。

【会議の委員(敬称略)】

山内昌之(歴史学者)、阿刀田高(作家)、紺野美沙、但木敬一(弁護士)

子(女優)、松本白鸚(歌舞伎俳優)、王貞治(プロ野球・ソフトバンク会長)、大谷剛彦(元最高裁判事)、



委員の主な意見

ア

◆紺野委員

両国でお相撲さんとするだけで、鬘付け油の香りをかき、大相撲が好き。長い歴史と伝統に育まれた「男の世界」に魅力を感じる。女性がいちいち入れない厳格な部分も保ち続けてほしい。独自の文化を守り続けるからこそ希少価値を生む。

イ

◆松本委員

「歌舞伎俳優は職人ではないか」と思うようになった。大相撲の世界も同様のことが言える。膨大な稽古の量と密度を積んでこそ、相撲道を理解でき、本物の相撲人になれる。歌舞伎も大相撲も、職人と呼ぶべき領域に到達することが求められている。

ウ

◆王委員

硬式ボールが当たった時の痛さを知る人でなければ、野球の世界を語ることはできない。同じく厳しい稽古の本当の限界は、大相撲で鍛えた力士たちには分からない。楽な勝ち方はない。勇気をふるう、恐怖心に打ち勝つ、根気よく自分を鍛えて戦うしかない。

(2021年4月20日 読売新聞朝刊より)

- 1 大相撲が今後、同じような道を歩むべきだと提言された競技は何ですか。

- 2 委員の主な意見について、ア～ウにあてはまる見出しを右の□から選び、番号を書きましょう。

ア	イ	ウ
---	---	---

- ① 本当の限界 力士だけが知る
② 独自の文化 希少価値生む
③ 職人の領域 稽古で到達
④ 誇るべき文化 海外評価高く

- 3 提言書についての説明として、適切なものを全て選び、番号を書きましょう。

- ① 多国籍化に対応するために、海外の文化も取り入れていくべきだと提案した。
② スポーツや芸能など相撲以外の分野から委員を集め、約2年かけて話合った。
③ 伝統を厳格に守るならば、女性と外国出身者は受け入れるべきではないとした。
④ 海外との関わり方で異なる道を選んだ武道を参考に、今後の方向性を示した。
⑤ 大相撲のファンが減った原因を探り、稽古量が足りないからだ結論づけた。